

同窓生シリーズ

(26)



第15回生 紺谷典子氏

1944年 9月3日生
 1963 都立新宿高校卒業
 1968 早稲田大学第一文学部史学科東洋史卒業

1968 (財)日本証券経済研究所に
 研究員として勤務
 84年より同研究所主任研究員

現職と兼務
 1987 中央大学企業研究所客員研究員
 1991 国際基督教大学非常勤講師
 (財務管理理論)
 1992 大蔵省 企業会計審議会・委員
 1992 労働省 財形制度研究会・委員
 1993 労働省 中小企業退職金共済
 審議会・委員
 1994 経済企画庁 国民経済計算
 調査会議・専門委員
 1994 共済生協資金運用検討委員
 会・委員
 1994 フジテレビ THE WEEK(出)
 に出演

Q—どんな 高校生活を？

当時校庭は、御苑とは地続きで、塀の壊れた(壊した?)所からただで御苑に出入りしている人が(私ではありません)いました。入場禁止の園遊会の日にもぐり込んでおまわりさんに、汚ない巧主共がいるぞと掴まされた。もぐり込むのはいいが新聞位は読んどけよ。読んでなくても入った時の雰囲気はわかりそうなものだ。と、校長先生に叱られました。このように今より牧歌的な所が

ありましたが、受験校の暗さもありません。でも新宿に行つて良かったと思ふことは、優秀な人がたくさんいて、いろいろな分野にネットワークが広がっていることです。

Q—何故 経済評論家に？

今でも「評論家」ではありませんが、こんな仕事をしたいと思つたことは一度もない。小学生の頃は、代議士とか弁護士になりました。私はオシャベリで、それは自分でも自覚していたので、口先で食べていける仕事

をしようと思つたかも知れません。中学のときは数学者に、高校では小説家かジャーナリストになろうかなと思つていました。そして一浪して早稲田で東洋史を勉強してその道を進むわけでしたが、四十年不況の就職難の時期で果せなかつた。この研究所が「女性研究員求む。数学か経済出身者」と、書いてありました。数学を使う経済学があることも知らず、数学でも経済でもいいっていうなら、どっちでなくともいいのかと気軽に受け、図々しさを買われて入っちゃったんですよ。

Q—女性故の 御苦労は？

全然ないんですよ、男の研究員が行つても貰えないデータも女性が行くと貰えるとか、女性だからかかえつて有利ということも多かつたです。それに研究の世界は男女平等なんです。女性であつ

25、26才でお嫁に行く予定がうまく行きませんでした。バブルや証券不祥事をきっかけに少しかけマスコミで

Q—経済分野に 進むには？

変な言い方ですが、基本は愛情だと思います。平均的な日本人は豊かになりましたが、非常に困りの方が必ずいるわけですから。そういう感覚が持てるかどうかということなんです。「知愛同一」西田幾太郎がいったんですが、知る事と愛情を持つという事は同じ事である。愛情を持った見方が正しいんだと勝手に解釈しています。数学を使う経済学では、一人一人の人間をサンプルのよ

Q—今の 新宿高校生に

本をたくさん読んで下さい。知識が増えれば、それだけものを柔らかく受け入れる気持ちがあ

たために苦労したということほとんどありません。がうまく行きませんでした。バブルや証券不祥事をきっかけに少しかけマスコミで平均的な日本人は豊かになりましたが、非常に困りの方が必ずいるわけですから。そういう感覚が持てるかどうかということなんです。「知愛同一」西田幾太郎がいったんですが、知る事と愛情を持つという事は同じ事である。愛情を持った見方が正しいんだと勝手に解釈しています。数学を使う経済学では、一人一人の人間をサンプルのよ

(日本証券経済研究所にてインタビュー)